

指定管理者評価表

1 基本情報

| | |
|--|--------------------------|
| (1) 公の施設の名称 | |
| 堺市立文化館 | |
| (2) 施設の設置目的 | |
| 市民に美術作品等の鑑賞の機会及び発表の場を提供し、もって市民の芸術文化の振興に寄与すること。 | |
| (3) 所管部局 | |
| 文化観光局 文化部 文化課 | |
| (4) 指定管理者名 | |
| 公益財団法人堺市文化振興財団 | |
| (5) 指定期間 | |
| 平成26年4月1日から平成31年3月31日まで（5年間） | |
| (6) 主な事業 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 貸館業務をはじめとする施設の管理運営に関すること ・ 施設設備の維持及び修繕等、保守管理に関すること ・ 消防訓練や避難経路の確保を行い緊急時の対応に備えること ・ 市から貸与を受けた備品を適切に管理すること ・ 利用者の意見を管理運営に反映させるため、アンケート等による意見聴取を行うこと ・ 作品等の活用、適正な整理・保管及び調査・研究等を行うこと | |
| (7) 有料施設の有無 | |
| 有（利用料金制） | |
| (8) 公募・非公募の別 | |
| 非公募 （非公募の場合その理由） 堺 アルフォンス・ミュシャ館は故土居君雄氏から寄贈されたアール・ヌーヴォーの代表画家アルフォンス・ミュシャの初期から晩年期にわたる作品を約500点所管している。さらに、一般貸出できるギャラリーでは、堺市所蔵美術作品展や堺市展など、市の芸術文化施策と密接に結びついた事業を体現する場として活用されている。これらは市の貴重な財産である所蔵作品に関する調査・研究業務及びそれらの作品を活用した展覧会等の企画・実施を行ってきた学芸員が、継続的に業務を行ってきた成果といえる。特に市の所蔵作品資料に関しては、その重要性を十分に理解し、市の意向を汲んだ取扱いができる管理者が不可欠であり、そういった点も踏まえ総合的にみて、文化館は長期的・継続的な視点に基づいた管理運営がなされるべき施設である。 堺市文化振興財団は「市民の文化活動の振興を図り、地域文化の創造に努め、市民生活の向上と地域の発展に寄与すること」を設立目的とした市の出資法人であり、これまでもその特性を活かし、市の文化施策を反映した多彩な事業を市内の各文化施設で展開してきたと同時に、平成18年度からは文化館の指定管理者として、設置目的に即した管理方針に従って、適正な管理運営の確保、利用者サービスの向上への取り組み、収支の実績において確実な成果をあげている団体である。また、文化館の特性を理解し、適切に業務を遂行することのできる、柔軟な対応に長けた団体である。 これらの点を踏まえ、効率的かつ柔軟なサービスの提供ができる指定管理者として堺市文化振興財団に随意指定するものである。 | |
| (9) 主な利用者 | (10) 市内における受益対象者数 |
| 市民 | 不特定多数 |
| (11) 近隣の類似施設名及び当該施設の評価に用いられている指標 | |
| 無 | |

2 管理運営状況

(1) 特筆すべき事項(地域貢献等の実績、取組、成果等)

堺 アルフォンス・ミュシャ館の展示については、昨年度に引き続き他館からの展示作品借用や展示サインの形態工夫などの展示手法の幅を広げるとともに、全国巡回展「サラ・ベルナルの世界展」の主幹美術館として従来にないコラボレーション型企画展を実施した。ギャラリーの貸館では、新規利用者の獲得に向け、新日春展の誘致を行った。

(2) 利用者サービス

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|--------------------------|---|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 指定管理者名 | 公益財団法人堺市文化振興財団 | 公益財団法人堺市文化振興財団 | 公益財団法人堺市文化振興財団 | 公益財団法人堺市文化振興財団 | 公益財団法人堺市文化振興財団 |
| ア 利用者数 (人) | 50,528 | 31,398 | 40,216 | 48,046 | |
| 利用者数の算出方法 | 堺 アルフォンス・ミュシャ館の観覧者数とギャラリーの入場者数 | | | | |
| 市による状況分析 | 新日春展の実施や全国巡回展「サラ・ベルナルの世界展」の実施など集客力のある企画展を展開することで利用者数の向上に資した。 | | | | |
| イ 稼働率 (%) | 45.3 | 45.1 | 47.3 | 44.5 | |
| 稼働率の算出方法 | ギャラリーの使用可能区数における使用区数の割合 | | | | |
| 市による状況分析 | 冬季の低稼働率を向上させることができず、年間稼働率が低下した。 | | | | |
| ウ 利用者満足度 (%) | 95.8 | 97.0 | 94.8 | 99.1 | |
| 利用者満足度の測定方法 | アンケートの全回答者数において「普通」以上と回答した割合(ミュシャ館観覧者アンケート及びギャラリー利用者アンケートの総数で計算) | | | | |
| 市による状況分析 | 魅力ある企画展の実施や来館者視点の管理運営を通じ、ミュシャ館観覧者及びギャラリー利用者の満足度の向上に資した。 | | | | |
| (3) 管理体制等 | | | | | |
| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
| ア 職員数(人) ※各年度4月現在 | 8 | 8 | 8 | 8 | 7 |
| イ 職員研修(回) ※令和元年度は予定回数 | 9 | 9 | 9 | 23 | 13 |
| ウ 要望、苦情等(件) | 0 | 0 | 1 | 0 | — |
| エ 事件、事故等(件) | 3 | 8 | 0 | 2 | — |
| 市による状況分析 | 来館者対応の向上や学芸員としての資質向上に向け、平成30年度から職員研修を増やしている。そうした人材育成の取組等が、魅力ある企画展の開催等を通じた利用者数の増加や利用者満足度向上の一助になっていると考えられる。 | | | | |

(4)収支状況(単位:円)

■指定管理業務

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度(予算) |
|--------------|--------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| ア 収入 | 指定管理料 | 79,481,042 | 80,365,042 | 80,762,924 | 79,600,000 | 80,337,000 |
| | 利用料金 | 10,939,000 | 7,863,620 | 9,221,700 | 11,367,560 | 11,600,000 |
| | 負担金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | その他収入 | 119,896 | 355,901 | 131,000 | 353,050 | 0 |
| 合 計 | | 90,539,938 | 88,584,563 | 90,115,624 | 91,320,610 | 91,937,000 |
| イ 支出 | 人件費 | 28,610,357 | 29,682,144 | 30,479,330 | 31,450,482 | 30,457,000 |
| | 委託料 ()内は総支出額 に占める委託料の割合 | 21,562,999 (25.3%) | 22,596,765 (25.4%) | 22,662,430 (26.0%) | 26,198,786 (28.2%) | 33,428,000 (36.4%) |
| | 修繕費 | 856,376 | 1,074,170 | 437,400 | 194,616 | 1,000,000 |
| | 光熱水費 | 9,593,106 | 9,000,468 | 8,979,848 | 7,470,884 | 9,380,000 |
| | その他経費 | 24,623,687 | 26,534,239 | 24,705,287 | 27,452,899 | 17,672,000 |
| 合 計 | | 85,246,525 | 88,887,786 | 87,264,295 | 92,767,667 | 91,937,000 |
| 利用者一人当たりの支出額 | | 1,687 | 2,831 | 2,170 | 1,931 | — |

| | | | | | |
|--------|-----------|----------|-----------|------------|---|
| ウ 収支差額 | 5,293,413 | -303,223 | 2,851,329 | -1,447,057 | 0 |
|--------|-----------|----------|-----------|------------|---|

| | | | | | |
|------------|---|---|---|---|---|
| エ 市への納付金の額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
|------------|---|---|---|---|---|

| | | | | | |
|-------------------|---|---|---|---|---|
| オ 徴収委託の場合 の徴収額 | — | — | — | — | — |
|-------------------|---|---|---|---|---|

| | |
|----------|--|
| 市による状況分析 | 平成30年度において、観覧料は前年比135.7%、1,516千円の増収、ギャラリー使用料は前年比112.7%、630千円の増収等により、利用料金収入の増加につながった。 |
|----------|--|

■自主事業 (有)

| | | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度(予算) |
|------------|--|-----------|-----------|-----------|------------|-----------|
| ア 収入 | | 1,762,725 | 1,573,613 | 2,179,156 | 1,976,554 | 4,369,000 |
| イ 支出 | | 700,465 | 2,129,491 | 2,645,475 | 3,866,637 | 3,997,000 |
| ウ 収支差額 | | 1,062,260 | -555,878 | -466,319 | -1,890,083 | 372,000 |
| エ 市への納付金の額 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| オ 事業数(回) | | 4 | 9 | 15 | 16 | |
| カ 参加者数(人) | | 475 | 1,165 | 3,133 | 4,128 | |

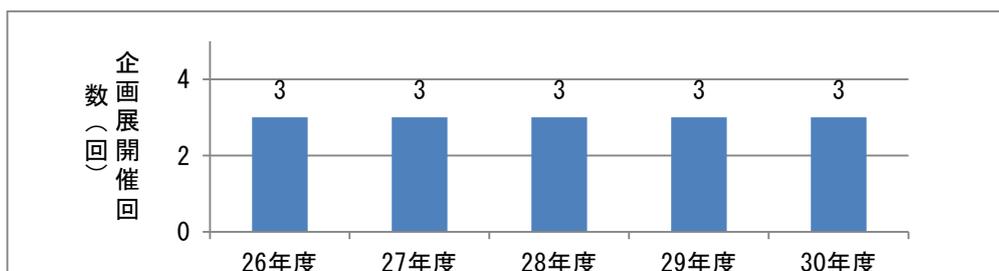
| | |
|--------|--------------------------------------|
| 主な自主事業 | ギャラリー活用事業 ミュージアムショップ 自動販売機管理運営 |
|--------|--------------------------------------|

| | |
|----------|--|
| 市による状況分析 | 施設の利用促進や利便性の向上等に重点を置き実施しているため、支出が収入を上回る事業が多い。近年は企画展との連携事業等も数多く展開している。また、平成30年度は新日春展の開催に伴い、参加者数が増加した。 |
|----------|--|

3 目標管理、評価等

(1) 適正な管理運営の確保

| | | | |
|------|-------|------------------------------------|---|
| 目標管理 | 評価の指標 | アルフォンス・ミュシャ館の展示（常設展、企画展、特別展等の開催件数） | （設定理由） 展示を行う館としての適正な管理運営の確保を評価する一つの指標であると考えられるため。 |
| | 目標 | 年間3回以上 | （設定理由） 仕様書において市が求める水準 |
| | 実績 | 企画展3回開催 | （分析） ※目標未達成時は詳細な原因分析 目標を達成することができた。 |



| | |
|---------------------------------------|---|
| 平等利用、維持管理、人員配置、事故対応、安全・緊急時対策等に関する特記事項 | 開館後18年を経過し、施設・器具等に経年劣化による不具合が発生しだしているが、部品交換及び部分補修等により費用節減と機能維持を図っている。 |
| 利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応 | 施設管理・接客対応・広報など全般的に好評を得ている。 |

| 評価等 | 指定管理者の自己評価 | | 市の評価 | | |
|------|-----------------------------|---|---|--|--|
| | 評価 | A | | B | |
| | 具体的な理由 | 1)3/17～7/8「ミュシャと新しい芸術 アール・ヌーヴォーとミュシャスタイル」、2)7/14～11/11「物語を彩るミュシャと挿絵の世界」、3)11/23～3/3「サラ・ベルナールの世界展」を実施。3)は全国巡回展として企画実施。展覧会企画を通じて館の認知拡充にも大きく寄与できた。 | | 市が求める基準に基づき年間3回の展示を行った。魅力ある企画展を展開することで、利用者数や利用者満足度の向上につながるなど、適正な管理運営を評価することができる。 | |
| 対応策等 | 引き続き、高質な企画展の制作に積極的に取り組んでいく。 | | より一層の利用者ニーズに合った魅力ある展示計画や自主事業及び貸館業務を行うことで、文化館のより一層の活性化を図りたい。 | | |

| | | |
|------|---|--|
| 評価基準 | S | 効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの |
| | A | 効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの |
| | B | 概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80～100%)の成果があり、適正なもの |
| | C | 仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの |
| | D | 管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの |

(2)利用者サービスの向上への取組

| | | | |
|-------------|-------|--|--|
| 目標管理 | 評価の指標 | 利用者の満足度 利用者数 施設稼働率 | (設定理由) 施設の利用しやすさや施設で行う事業の魅力 を反映する指標の一つであると考えられるため。 |
| | 目標 | 【利用者満足度】90%以上 【利用者数】年間入場者数4.4万人以上 【施設稼働率】年間稼働率60%以上 | (設定理由) 仕様書において市が求める基準 |
| | 実績 | 【利用者満足度】 99.1% (ミュシャ館観覧者) 97.8% (ギャラリー利用者) 【利用者数】 年間入場者数48,046人 【施設稼働率】 年間稼働率44.5% | (分析) 利用者満足度及び利用者数は目標を達成することができた。施設稼働率は目標を達成することができなかった。 ※目標未達成時は詳細な原因分析 |



利用者サービス、利用促進、自主事業、人権尊重に配慮した情報提供、利用者意見・要望の反映等に関する特記事項

ギャラリーの新規利用者の獲得に向け、新日春展の誘致を行った。また、地元商店会主催事業への参画など、館として内外に向けて能動的な活動に注力した。

利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応

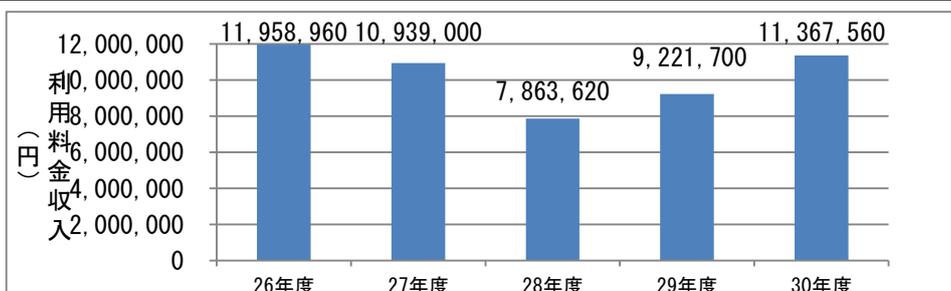
特になし

| 評価等 | 指定管理者の自己評価 | | 市の評価 | | |
|------------|--|--|---|---|--|
| | 評価 | B | | B | |
| | 具体的な理由 | ギャラリー利用者で4.2%増、ミュシャ館では4.3%増と満足度の向上を図ることができ、年間入場者数9.2%増を達成した。一方、ギャラリーの冬季低稼働率の大幅向上を出来ず、年間稼働率は低下した。 | | 魅力ある企画展の展開等を通じ、利用者数の向上や利用者満足度の向上を図ることができたが、ギャラリーの稼働率は低下傾向にある。 | |
| 対応策等 | 満足度向上に向けた利用者視点での一層のサービス向上、入場者増に繋ぐ高質な企画提供と効率的な広報活動、稼働率向上に向けての利用促進広報活動の強化と集客力の高い展示会との連携や自主事業展開を図る。 | | 現ギャラリー利用者の高齢化による後継者問題の解決や新規利用者獲得促進を展開いただき、ギャラリーの稼働率向上を図りたい。 | | |

| | | |
|-------------|---|--|
| 評価基準 | S | 効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの |
| | A | 効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの |
| | B | 概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの |
| | C | 仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの |
| | D | 管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの |

(3) 収支の実績

| | | | |
|------|-------|-------------|--|
| 目標管理 | 評価の指標 | 利用料金収入 | (設定理由) 施設の利用しやすさ、または施設で行う事業の魅力や反映しやすい指標の一つであると考えられるため。 |
| | 目標 | 1,000万円以上 | (設定理由) 基本協定書において市が求める水準 |
| | 実績 | 11,367,560円 | (分析) ※目標未達成時は詳細な原因分析 目標を達成することができた。 |



| | |
|------------------------------------|---|
| 収入増加のための取組、収支状況、経営状況、経理事務等に関する特記事項 | 魅力ある企画展の展開等の開催や新たな顧客獲得に向けた事業の誘致等を通じて、利用料金収入の増収を図った。 |
|------------------------------------|---|

| | |
|-----------------------|------|
| 利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応 | 特になし |
|-----------------------|------|

| 評価等 | 指定管理者の自己評価 | | 市の評価 | | |
|------|--|---|--|---|--|
| | 評価 | B | | B | |
| | 具体的な理由 | 対目標113.7%を達成したが、観覧料は前年度(9か月開館)を約152万円(月平均8.3千円)増収、ギャラリーは前年度(10か月)を63万円増収(月平均3万円の減収)で、利用料金収入の月額ベースでは前年を下回った。 | 観覧料は前年比137.7%(1,516千円増収)、ギャラリー使用料は前年比112.7%(630千円増収)と、利用料金収入は前年度と比較し増収となった。閉館期間があった前年度だけでなく、ここ数年と比較しても増収傾向であることは評価できる。 | | |
| 対応策等 | 広報活動等の拡充による観覧者数増、ギャラリー新規利用者の獲得に向けた活動強化によるギャラリー稼働率の向上、ミュージアム館共通入場展示会開催などの施策の実施など、利用料金収入向上に向けた取組を実施する。 | 管理費をはじめとしたコスト縮減とともに、魅力ある企画展や事業展開に伴う利用者の増加等により、経営効率の一層の向上を図りたい。 | | | |

| | | |
|------|---|---|
| 評価基準 | S | 効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組を行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの |
| | A | 効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組を行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの |
| | B | 概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの |
| | C | 仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの |
| | D | 管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの |